

令和5年度 第1回

交野市水道事業経営審議会

議事要旨

令和5年4月24日開催

交野市水道事業経営審議会（第1回） 議事要旨

開催日時	令和5年4月24日（月）10:00～
開催場所	交野市星の里浄水場 会議室
出席委員	後藤会長、畑山副会長、覚道委員、森本委員、竹内委員、代永委員、市岡委員（欠席者：山崎委員）
傍聴者	なし
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 会長及び副会長の選任について 5. 諮問 6. 議事 交野市水道事業の経営状況について 7. その他 8. 閉会
資料	次第 資料1 審議会委員名簿 資料2 審議会条例 資料3 第1回交野市水道事業経営審議会資料 資料4 交野市水道事業経営のあり方について 答申書（写）
所管	交野市水道局 総務課

議事概要

1. 開会

事務局より、開会の挨拶

2. 委嘱状交付

市長より、各委員へ委嘱状を交付

3. 市長挨拶

市長より、交野市水道事業経営審議会開催の挨拶

4. 会長及び副会長の選任について

委員より、事務局側に会長及び副会長の推薦を一任したい申し出があり、委員全員の同意を得た。

事務局側より、会長に摂南大学経済学部教授の後藤委員、副会長に交野市区長会会長の畑山委員を推薦する旨の提案があった。

結果、委員の互選により、後藤委員が会長に、畑山委員が副会長に選任された。

5. 諮問

市長より、交野市水道事業経営審議会における諮問の実施

— 以下、議事内容に沿って会長が進行 —

6. 議事

【交野市水道事業の経営状況について】

事務局より、資料3について内容を説明

— 以下、意見・質疑応答 —

委員

5ページ下のグラフのところで、令和2年度にコロナの案件で減免し、それに対して一般会計からの補填があったということで、これは減免した額と全く同額を補填されたということか。

事務局

おっしゃるとおりです。令和2年度はコロナウイルスが蔓延した年で、市民生活への支援という考え方で、市の政策により基本料金を4ヶ月減免いたしました。

委員

では、グラフが少し回復しているのは、単純にこれは水需要が増えたということか。

事務局

そのとおりです。本市は工場等が少なく、減少の影響が受けにくい一方、在宅ワークによる影響で水量が増えたと考えております。

委員

16ページのこれからの財政の補助金見込について、公営企業は原則受益者負担なので、なかなかハードルは高いと思うが、いかがなものなのか。

もう一つ、資金運用で収益を得ると市長はおっしゃっていたが、給水収益にはあたらないので給水原価や供給単価には反映されないのではないか。

補助金によって、以前の審議会で検討した時と、今回検討する時に大きく変わるところがあるのか。たくさんの補助金をいただける形なら料金改定しなくてもいいというが、給水原価や供給単価の算出方法では、給水収益にはあたらないので、計算上補助金や資金運用で収益を得ることというのは少々厳しいのではと感じている。

委員

水道事業の営業外での資金運用の利息や補助金の収入が、本当に反映される見込みがあるのかどうかが見えない。市長が先ほどおっしゃっていた理論が当たり前のことなのかというところがわからない。そう考えると審議会で検討して答申を出していくのが、先行き不安に感じる。

事務局

今後、第2回からそのシミュレーションをさせていただくこととなりますが、補助金が入る条件を見てわかりやすい資料作り、そして市長がイメージしている部分もわかりやすい図表を用いてご説明させていただきます。

委員

私たちがここで時間をかけて審議するのに、市長・事務局側と話のベースが違くと話にならないので、その辺をきちんと見えやすいものにしてほしい。

委員

今の資料の説明だと、審議の視点が前回の審議会と全く一緒と感じる。何について改めて答申を出さないといけないのか。

説明を聞く限り、当然値上げをするということだと思うが、市長は一旦凍結とおっしゃっていたので、次回以降説明をきちんとしてほしい。

会長

市長の先ほどのお話から、前回の審議会から付け加えるとしたら収入が増えることも考えてほしいということが主な主旨か。その中に国からの補助金と、基金を運用することのだが、何の基金でどれぐらいの収益を見込んでいて、そのうち水道事業に割り振られるのがどれぐらいなのか、市長がどの様に考えているのかよくわからなかった。

事務局

水道事業の現金残高が24億円程度ですが、運転資金がございまして最低でも10億円程度は残しておかないと資金ショートを起こして倒産ということも考えられます。10億円程度をその基金に拠出しまして、先ほど市長が申し上げた資金運用で収益を得る考えです。

しかし、シミュレーションでは令和12年度に資金ショートしてしまいますので、いつまでも10億円を預けたままにしておくことはできません。そういったところを見越すと拠出する資金量は減っていくと思います。

これらの収入は給水収益ではありませんので、国からの事業費の補助金をもらうための料金改定率には算入しないのですが、経営資金にはなります。

補助金を得るために、料金回収率100%を見込むとすると、給水収益が必要ですので、今後の料金改定を考えていただき、それ以外に資金運用の収益も得るといったような考え方になってきます。

委員

以前の審議会が3年前なので、もう令和2年度と3年度の実績が出ていると思うが、水量の減少具合がシミュレーション通りにきているのか。

事務局

シミュレーションの実績について、次回にご検討していただければと存じます。

7. その他

今後の審議会のスケジュールについて

8. 閉会

以上